

社会医療法人愛生会

上飯田リハビリテーション病院



各科データ

各科診療実績 2022年1月～2022年12月データ

▶ 入院実績

項目	件数
新規入院患者数	438名
1日平均患者数	91.5名
平均在院日数	75.9日
在宅復帰率（70%以上）	95.3%
入院時重症度（40%以上）	46.4%
退院時回復割合（30%以上）	81.4%
1日あたり平均リハビリ実施単位	6.8単位
実績指数（アウトカム指数）	43.5

▶ 通所リハビリテーション

利用実績	件数
利用件数（1ヶ月平均）	
クイック（1時間～2時間利用）	21
オーダー（3時間～4時間利用）	58
ベーシック（6時間～7時間利用）	69
利用延件数（1ヶ月平均）	
クイック	158
オーダー	371
ベーシック	471
介護度割合（%）	
要介護1	11
要介護2	36
要介護3	20
要介護4	14
要介護5	2
要支援1	5
要支援2	11
目標達成による卒業者（年間）	
クイック	0
オーダー	4
ベーシック	1

▶ 栄養科

項目	件数
患者食数 一般食	46,490
患者食数 特別食（加算）	31,051
患者食数 特別食（非加算）	14,670
患者食数 濃厚流動食	6,073
通所リハビリテーション食数	5,442
入院栄養食事指導	360
NST 回診延べ患者数	71
栄養アセスメント件数	941

▶ 地域医療連携室

項目	件数
介護連携指導料	43
退院時共同指導料	0
退院支援加算件数	372
相談延件数 （相談領域）	5,036
入院相談	976
背景要因	3
カンファレンス	1,572
家族	1
職業・住居	1
経済	19
退院支援（転院・入所）	498
在宅支援・維持	16
その他	33
退院支援（在宅）	1,917

▶ 紹介入院患者数

紹介元医療機関名	件数
名古屋医療センター	85
総合上飯田第一病院	79
西部医療センター	63
東部医療センター	51
大隈病院	40
名古屋徳洲会病院	14
名古屋市立大学病院	13
春日井市民病院	9
名城病院	8
名古屋大学医学部附属病院	7
旭労災病院	6
聖霊病院	6
名古屋掖済会病院	5
中京病院	5
日赤愛知医療センター名古屋第一病院	4
愛知医科大学病院	4
小牧市民病院	4
その他、市内の医療機関	13
その他、市外の医療機関	9
その他、県外の医療機関	3

上飯田リハビリテーション病院

院長 水野 正昇

➤ 特徴

当院は回復期リハビリテーションの病院です。入院時から自宅での生活や就労を想定し、個別リハビリテーションは一日最大3時間を目標に実施しています。医師をはじめとして様々な職種が協力し、チームで総合的な個別リハビリテーションに取り組んでいます。

また、通所リハビリテーションにも力を入れ、入院中から退院後の通院リハビリテーションへ円滑に移行できるようにしています。

➤ 今後の目標

- 安心、安全な環境の提供
患者さま、利用者さまが安心してリハビリテーション医療を受けることができるよう安全な医療の提供に努めます。
- 地域医療連携の推進
地域の救急医療が円滑に機能するよう受け入れを速やかにし、効果的なリハビリテーションにより早期の社会、家庭への復帰を実現します。
- 法人内連携の強化
医療・介護の事業所との連携を強化し、地域のみなさまが安心して生活できるよう努めます。

看護部

看護部長 森川 和美

➤ 特徴

身体の状態だけでなく、障害を負うことで変わっていく今後の人生に、全職員一丸となって総合的にサポートしていくことができるよう、チームアプローチを実践しています。

そして、よりよい状態で、地域、社会、家庭に復帰していただけるよう、最善の看護・介護の提供に努めております。

施設基準：回復期リハビリテーション入院料 1

看護：回復期リハビリテーション看護師 3名
NST 専門療法士 3名

介護：アセッサー 3名

➤ 今後の目標

基本方針

- 患者のニーズに応じた、安全で安心な療養環境を提供する
- 看護・介護水準向上のため、自己啓発・相互啓発に努める
- 看護・介護職の専門性を自覚し、他職種との連携・チーム医療を推進する

目標

患者のその人らしく生きる生活を大切にし、信頼され愛される看護・介護の提供に努めます

通所リハビリテーション

師長 中島 智子

▶ 特徴

利用者さまの生活スタイルやご希望に応じたコースを選択していただくことができます。理学療法士・作業療法士・言語聴覚士による個別のリハビリテーションを中心に看護師や介護士等と連携しながら利用者さまと目標を確認してリハビリテーションを提供しています。また、在宅生活をより安心して生活を送るために利用者さまやご家族さま、ケアマネジャー、他のサービス事業者を含めたリハビリ会議を開催し自立支援に向けたサービスの提供に努めております。

▶ 今後の目標

利用者さまを積極的に受け入れ、充実したサービスの提供や質の向上に努めます。生活機能の改善に努め、リハビリの卒業や他のサービスへ移行に取り組みます。

地域医療連携室

医療ソーシャルワーカー主任補 高島 ゆかり

▶ 特徴

地域医療連携室は連携師長と社会福祉士3名の体制で、連携師長は主に入院受け入れを担当し、社会福祉士3名は入院中の患者さまの生活問題の相談や退院支援を行っています。

社会福祉士は、入院時に患者さま・ご家族と面談し、すべての患者さまの支援にあたっています。院内では他職種ともにチームアプローチを実践し、院外の各担当者との連携もとりながら、患者さまやご家族が安心して入院生活を送り、退院を迎えられるよう支援しています。

▶ 今後の目標

2023年1月から社会福祉士が1名増員となりました。電子カルテの導入もあり、業務内容の整理・見直しを行い、効率化をはかります。

患者さまやご家族に安心していただけるよう、専門性の更なる向上を目指して学習を進めます。情報や知識を部署内で共有し、部署としての力量を上げていきます。

患者さまやご家族だけでなく、院内の多職種、院外の各担当者からも相談しやすい部署であるよう努めてまいります。

リハビリテーション科

リハビリテーション科係長 成瀬 早苗

➤ 特徴

施設基準：脳血管等リハビリテーション（Ⅰ）運動器リハビリテーション（Ⅰ）

人 員：理学療法士34名、作業療法士27名、言語聴覚士12名

主に回復期病棟入院中の患者さまに対し、最大限の回復を目指しリハビリテーションを行っています。職員には様々な経験を積ませ、広い視野で最適なリハビリテーションを選択、提供できるよう育成しています。

地域への貢献として以前はリハビリ講座など実施していましたが、コロナ禍にて開催できませんでした。

➤ 今後の目標

- 1.さらなる治療効果（退院時ADL、実績指数）向上のため、人材育成・業務改善に努めます。
- 2.患者さまやご家族に安心していただけるよう、引き続き入退院支援の強化に努めます。
- 3.地域医療に貢献するため、リハビリ講座の継続開催や法人内外の連携強化を推進します。

栄養科

栄養科係長 藤田 寛子

➤ 特徴

各病棟に専任の管理栄養士が在籍し、栄養管理を行っています。入院時に栄養に関する聞き取りをもとに栄養評価を行い、低栄養およびリスクのある患者さまを早期に発見し計画を立案します。その後も摂取状況・体重変化等を確認し、必要な患者さまには最適な栄養補助食を負荷することで、リハビリ効果を高める栄養管理を目指しています。

給食部門は全面委託しています。定期的に行事食を実施するなど、患者さまに喜んでいただけるよう努めております。

➤ 今後の目標

- ・患者さま個々に合わせた栄養管理を提供します。
- ・再発を防ぐために定期的に栄養指導を実施します。
- ・栄養士の専門性を磨くために、各資格取得・研修会参加に努めます。
- ・給食満足度の向上に努めます。

薬剤部

薬剤部 竹川 真由美

▶ 特徴

適正な薬物療法を支援するため、医薬品の管理・供給、情報の収集・提供を行っています。
(DI ニュースの発行等)

後発品不足が生じ、医薬品の安定供給が難しくなっています。代替品への処方変更など、安心して薬物療法が受けられるように努めています。

患者さまに安全で安心してお薬を服用していただくために、お薬を一包化し、わかりやすく服用しやすい状態にすることによって、患者さまのコンプライアンス向上に寄与しています。

▶ 今後の目標

- ・ 医薬品が有効に使用されるよう適正使用に努めます。
- ・ 薬剤の多剤投与「ポリファーマシー」の軽減に努めます。
- ・ 感染制御の推進に努めます。
- ・ 持参薬の内服漏れがないように努めます。
- ・ 医薬品の安定供給・薬物療法の情報提供に努めます。

専門医資格一覧

水野 正昇 院長
【専門医】日本整形外科学会 整形外科専門医

伊東 慶一 副院長
【指導医】日本リハビリテーション医学会 リハビリテーション科指導医
【専門医】日本認知症予防学会 認知症予防専門医

成瀬 隆裕 整形外科部長
【専門医】日本整形外科学会 整形外科専門医

大島 祐之 整形外科部長
【専門医】日本整形外科学会 整形外科専門医
【認定医】日本整形外科学会 認定運動器リハビリテーション医
日本スポーツ協会 公認スポーツドクター
日本整形外科学会 認定スポーツ医
日本医師会 認定産業医

増田 匡 脳神経内科部長
【専門医】日本神経学会 神経内科専門医
【認定医】日本内科学会 認定内科医